



ESCO News Letter

第9巻 第1号

発行日 2020年5月29日

GFSI世界食品安全会議2020

世界食品安全会議 (Global Food Safety Conference) は、毎年、世界各国から約1,000人以上の食品安全の専門家が集まり、食品の安全性や食品安全システムの効率化などについてディスカッションや情報共有を行っている会議です。世界の小売業、製造業、食品サービス、認定・認証機関、食品安全に関する国際機関が協力し合い、世界の食品安全を推進する「GFSI

(Global Food Safety Initiative)」が主催しており、業界主導の食品安全に関するトップイベントとしての地位を確立しています。

弊社では、2012年から参加を続けており、収集した食品安全のトレンドや有用情報を、お客様への情報提供や業務のアップデートに活かしています。2020年は、2月26日～28日に米国(シアトル)にて開催されました。



この号の内容

GFSI世界食品安全会議2020
「世界的な調和」「子供たちに向けた教育」 1

消費者の安全と安心のために、
食品安全の推進者としてできること 2

求められる「世界的調和」、「子供たちに向けた教育」

今回の会議には、世界55か国から、1,000名の食品安全の専門家が集まり、日本からも、JFSMや日本GAP協会、小売業、メーカー、認証機関などから20名程度の方が参加されました。

本会議初日は「GFSI設立20周年」のお祝いが催され、新しいベンチマーキングであるversion 2020が発表されました。

米国農務省のポール・キッカー氏は「世界的な検査精度の向上は食品安全にとっての重大な要件であり、米国に輸入する物には国内同様の検査基準を要求しており、この基準を満たした組織はデータベース上で公開している。今後は、カンピロバクターの性能基準を追加する予定だ。また、経済動物の人道的な屠殺方法も要求しており、2014年から近代化を推し進めてきた。卵と牛についても近代化を進める予定だ。GFSIの地域にとらわれず一貫した活動は、米国の考えとも一致しており、評

価できる」と述べました。また、国連・世界食品プログラムのイザベル・ンバラ氏は「食品に関する援助活動をする上での障壁は、各国の基準に一貫性が無く、援助物資の検証が極めて複雑なことによる時間のロスだ。GFSIには、国際的な調和を進め、物資の移動を円滑にすることを期待する」と述べました。

.....

ニューメキシコ大学のバーバラ・チェンバリン氏は、子供たちへの食品安全に関する教育の一つとして、中学生向けのPRPをテーマにしたシミュレーション格闘ゲーム(テレビゲーム)を開発し、「更衣や手洗いをしない人、入荷時検査を怠ける人を敵キャラクターに見立てて倒すだけでなく、是正対策をクイズにすることで、自然に食品安全の知識が付くように工夫をした。スマートフォンでは、友達と協力し合って共通の敵を倒し、命を守ることも教えられる。」と述べました。

トピックス

紙からアプリへ！ ー省紙化&スピードUPー

会場では省紙化が徹底されていました。受付ではA4サイズの名札が1枚渡されたのみで、プログラム案内や参加者表などは、専用のスマホアプリで配信されていました。このアプリを通じて、会議中に演者へ質問し、その場で回答を得ることも可能で、スピードが感じられました。

消費者の安心安全のために、食品安全の推進者としてできること

本会議におけるキーワードは、「食中毒対策」、「最新技術の採用」、そして「透明性の向上」でした。世界で毎年死者を出している食中毒や、アレルギー症状といった課題に対して、共通の仕組みの導入や新たな技術の活用を積極的に行うことなど、GFSI関係者全体で総力を挙げて解決に取り組んでいくという意思が共有されました。

キーワード① 食中毒対策

FDAやUSDAを始めとする行政機関や、コストコ社やウェグマンズ社など民間の小売業者は、米国で発生したロメインレタスによるO157を原因とする食中毒や、豪州で発生したメロンによるリステリアを原因とする食中毒について、原因を追究した事例を報告しました。青果物・精肉などを含めて産地と卸売市場での汚染が際立っている、としたうえで、米国本土では、農産物の倉庫や加工場と、牧場や屠畜場が隣接していることによる交差汚染が、南米やアフリカなどでは、青果物を並べている隣を家畜や野生動物が闊歩する卸売市場で起こる交差汚染が問題になっています。これらを防ぐために、工場での加熱工程の追加や、倉庫に堅牢な仕切りを設ける対策が実施されており、また、FDAにおいては最新技術を積極的に採り入れ、汚染された食品が米国市場に流入するのを防止する、という指針を掲げて食中毒の防止に取り組んでいました。

キーワード② 最新技術の採用

耐改ざん性に優れるブロックチェーン技術はもとより、サプライチェーン全体に適用できるようなアプリケーションの開発が、各企業によって積極的に推進されていました。ブロックチェーンの信頼性は、コンピューターはもとよりそれを扱う人間側の影響の方が大きいため、人間の倫理観や道徳観を十分に養成する必要があります。新技術を採り入れる際には、新しい試みも同時に始めなければならないということでしょう。

南米やアフリカを始めとした一部の地域では、米国とは異なる仕組みのアプリケーションを使用していることによって、製品汚染に関する連絡が遅延し出荷後の回収が生じています。あるいは消費者によって手洗いなど微生物による汚染を防ぐためのルールが守られず、食中毒患者が増加してしまう問題が起きています。これらに対処すべく、生産者から小売りまで共通のプラットフォームを使ったアプリケーションの開発や、消費者向け料理のレシピにPRPの内容を組み込んで発信する等、コンピューターと人間の双方に向けて、新しい考え方を導入した技術が採用されているとのことでした。

キーワード③ 透明性の向上

ここでいう透明性の向上とは、サプライチェーン全体を通して同じプラットフォームを使用したAPI(Application Programming Interface)を使用し、消費者へより迅速且つ正確な商品情報を届ける、ということの意味し、消費者の安全・安心を向上することに寄与するものです。例えばアレルギーはアレルギー症状の原因となりますが、異なるプラットフォームを使用していると、サプライチェーンの途中でアレルギーの情報が突如失われ、商品への表示が抜け落ちてしまうことがあります。そこでサプライチェーン全体を1つのAPIで管理しようという試みが成されています。実現には、関係事業者全体での協力と組織トップの迅速な経営判断が必要になります。

会議の開催地であるシアトルに本社を置くアマゾン社では、AIを駆使して、原材料名から、抜け落ちてしまったアレルギー情報を予測したり、消費者から得られるレビューやクレーム情報の解析から、商品のリコールの発生を77日前に予測し、商品の取扱いを予め中止する試みがされていました。

世代間の認識の違いを理解し、食品安全を推進！

今回講演された中で、食品安全活動が円滑に実施されない一つの要因は、組織中の世代間の認識の差異であることが提言されました。例えば、ベビーブーマー世代(1946～64生)は筆記体をスラスラと書き、電話といえば通話のみの黒電話ですが、ミレニアル世代(1977～95生)以降では筆記体を習わないのが一般的で、電話といえば相手の顔を見ながら通話するスマートフォンという認識です。つまり世代間での認識の差異によって、同じ言葉を用いてもその内容が全く異なってしまう場合があるということです。食品安全活動においても、世代やそれを反映する役職等の違いによって認識の差異が生まれ、指示する側と実行する現場とがお互い気付かずに、異なる目標をめざしてしまうことがあります。

ベビーブーマー世代は現在、取締役など経営の中核を担う立場にあることが多く、X世代(1965～76生)以降にはない権力と、技術や経験を持つ貴重な存在です。継続的な改善で組織を磨き上げ、食品安全活動を推進するために、年長者は若い世代の認識を十分に理解し、寄り添う形でコミュニケーションを取り、技術の継承を積極的に行うことが重要です。また、若い世代の持つ新しい考えや技術を、組織が積極的に試し、採用する柔軟性を併せ持つ必要もあるでしょう。

アース環境

総合環境衛生管理で
社会に貢献します

無断複写・複製はご遠慮下さい。

本件に関してのお問合せは、
03-3253-0640

ホームページもご覧ください
<http://www.earth-kankyo.co.jp/>